

市内の各小中学校では、学習指導要領の狙いを受け、「子どもたちの生きる力をはぐくむ」さまざまな教育活動を行い、特色ある学校づくりを進めています。
「教育のひろば」では、家庭・学校・地域がお互いを理解し協力し合える姿を目指し、教育活動の紹介を行っています。今月号は大平小学校です。

白石市立大平小学校

☎25-3709 ☎25-3745 URL: <http://www.oodaira-e.myswan.ne.jp/> Eメール: chief@oodaira-e.myswan.ne.jp

教育目標

自ら考え、正しく判断し、健康で心豊かな児童を育成する

めざす児童像

- 1 学びつづける子（しっかり聞き、はっきり話す子ども）
- 2 思いやる子（心のこもったあいさつができる子ども）
- 3 たくましい子（さそい合って、元気に外で遊ぶ子ども）

当校では、毎月「学校だより」を発行して子どもたちの頑張っている様子をお伝えしています。これを基に、各学年ごとに1学期の活動をまとめてみました。

1年生 入学式の時、ランドセルが大きく見えたのですが、今ではたくましく元気に活動しています。運動会でも力いっぱい走りました。毎日聞こえてくる朝の歌も楽しそうです。本読みも上手になり、字もいっぱい覚えしました。畑に植えたトマトも大きくなり楽しみです。

2年生 元気いっぱい活動しました。畑に植えた野菜の育ちを熱心に観察している姿はさすがでした。一輪車の練習をして上手になった人もたくさんいます。

去年よりも難しくなった勉強も頑張りました。音楽集会での合奏もすてきでした。

3年生 一段と成長しました。学校生活でも落ち着いて行動できる人が多くなり、いろいろな仕事を頑張りました。社会科の「大平探検」では、一生懸命に地域の勉強をしました。畑に植えたダイズの成長も楽しみです。おいしい豆腐や納豆ができると良いですね。



▲1年生の授業風景



▲田植えの指導を受ける児童たち

4年生 社会科の学習でリサイクルの問題に、一生懸命に取り組みました。南部山浄水場の見学や、ゲストティーチャーを招いてのリサイクルの勉強を頑張りました。いつでも笑顔で頑張る4年生です。

5年生 高学年としての自覚ができました。委員会活動でもそれぞれ役割を果たすために熱心に活動していました。「総合的な学習の時間」での活動では、田植えや草取り、鉢森山登山など、とても充実した1学期でした。

6年生 最高学年として、全校の子どもたちをリードしてくれました。運動会での応援や縦割りリレーのお世話、学校生活の指導と数多くの場面でリーダーシップを発揮して活躍してくれました。安心して6年生に任せられた1学期でした。何といても、何事にも一生懸命に取り組んだ6年生一人ひとりの姿がとてもすてきでした。2学期もさらなる活躍を期待しています。



▲感謝の気持ちを伝える児童たち

◆地域に開かれた学校づくり「きらきら祭り(収穫祭)」

「きらきら祭り」は本校独自の活動です。春に理科や学活、総合的な学習の時間に野菜や稲の苗を植え、学年ごとの継続した取り組みにより、実った収穫を学校全体で喜び合うというものです。また、ご協力いただいた地域の方々を招待して、感謝の気持ちをお伝えしています。

子どもたちは、収穫したもち米でもちつきをしたり、収穫した作物で作った料理をお腹いっぱい食べ、5・6年生が準備した遊びの店で思いっきり遊びます。この行事は、本校児童、保護者、教職員と地域の方々の協力により行われています。

めっきり朝夕の涼しさが感じられる秋本番の季節になってきました。これからの時期は、さまざまな活動に適した季節です。学校でも、「学びつづける子」、「思いやる子」、「たくましい子」を目指して子どもたち一人ひとりがたくさんの「力」を「収穫」できるように、さまざまな行事を計画しています。

さて、平成18年度もいよいよ折り返しに入りました。前半の6カ月の反省を生かし、後半はさらにバージョンアップして全職員で取り組みますので、家庭・地域の皆さんのなお一層のご理解とご協力をお願いします。

今年も市内の中学2年生男女12名、引率2名が、8月3日から11日間の日程で、姉妹都市のオーストラリア・ハーストビル市を訪問して、国際理解と交流を深めました。
今月号では、生徒と引率の先生の感想文を紹介します。

「ハーストビル市との交流を通して」白石中学校2年 渡邊 みつき

私は、今回のハーストビル市との交流を通し、学んだことがたくさんあります。

その中でも一番印象に残りうれしかったことは、ホームステイです。私のホストファミリー、ウォーリッシュ家の家族の皆さんは、私に対して本当の家族のように接してくれました。私は、日本を離れることがとても不安でしたが、ホストファミリーが私を支えてくれたので、とても良い交流をすることができました。最後のお別れのときは、お互いに涙を流しながらのお別れでした。私は、このとき改めて人の優しさを実感しました。

また、現地のガイドさんの話の中で、第二次世界大戦でオーストラリアは、日本にひどいことをされたと聞きました。しかし、オーストラリアの人々は、すべての日本人が悪い人ばかりでないことを知り、交流を深めたいと思えるようになったと聞いて、オーストラリアの人々の心の広さと温かさを知りました。

私は、今回訪問した「ハーストビル」と離れて見た「ふるさと白石」の二つのまちの良いところを実感することができました。お互いの文化の違いを認識し、理解し合えることが大事なんだと知り、今回のホームステイに参加できて本当に良かったと思いました。この経験で学んだ、オーストラリアの人々の優しさを忘れずに、私もほかの人に優しくできるような人になりたいです。そして、これからもいろんなことに挑戦し、将来に生かしていきたいです。



▲訪問前に練習した「南中ソーラン」を披露しました

「ハーストビル体験訪問を通して」白川中学校2年 我妻 克哉

私達ハーストビル訪問団員12名は、8月3日から13日までオーストラリアへ行ってきました。

僕はこのハーストビル体験訪問へ行って、特に自分が変わったことを述べたいと思います。

行く前に設定していた目標「積極的に話し、積極的に聞く」を達成できたことにより、今まで積極的に英語を使おうとしなかった自分の態度が変わりました。

まず、ハーストビルのホストファミリーへ自己紹介を自分から言って、それからうまく会話につなげることができました。分からないことを積極的に聞くという部分では、ホストファミリーと土曜日と日曜日にシドニーのオペラハウス周辺を見に行ったときに分からないことがたくさんありましたが、ホストファミリーに何度も何度も繰り返して聞き、理解することができました。

今では、ほかのことにも以前より積極的に行動できるようになったと思います。そうなれたのは親や先生方、ハーストビル訪問関係者の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

「人の温かさ」に支えられて 白石中学校教諭 藤田 佳宏

家族…まさに本当の家族のようでした。ホストファミリーと出会ってわずか数日でしたが、子どもたちはすっかり「家族の一員」となっていました。ホストファミリーの子どもたちと仲良く遊んだり、ふざけあつたりしている姿は、見ているこちらにも自然と笑みが出てくるようなとても温かいものでした。子どもたちの「適応する力」のすごさに驚くとともに、人と人のつながりの際に一番大切なものは、言葉でなくても、共通の考え方でもなく、「お互いを大切に思う気持ち」なのだと改めて感じる一場面でした。

私自身も今回の滞在中、たくさんの方々の温かさに支えていただきました。ホームステイ先の「あったかお母さん、ジョイさん」、「ギャグが大好きでちょっとお茶目なスチュワートお父さん」、常に子どもたちのことを考えてくれた「ダンディ&ユーモラスなガイドのメディナカジマさん」…本当にたくさんの方々の温かい方々に巡り会うことができました。出会った方全員が、温かい瞳・優しい心で私たちのことを包んでくださいました。

今回の訪問を通して、私はもう一つ強く感じたことがあります。それは、白石市とハーストビル市との間のこの素晴らしい関係を今後もさらに大事にしていかなければならないということです。さよならパーティーの際に、両市の友好関係をスタートさせるに当たりご尽力されたスーさんという方がいらっしゃっていました。ハーストビルのバダラティ市長が両市の友好の歴史、そしてスーさんの努力について話されたときのことです…スーさんの目から涙があふれました…。この涙を見たときに、私は両市の友好関係の持つ意味の大きさ・深さを感じるとともに、この素晴らしい関係を今後もより充実させていかなければならないという思いをさらに強くしました。



▲あいにくの小雨の中、オペラハウスの前で

11日間という短い訪問でしたが、この間に子どもたちは本当に多くの素晴らしい体験をしました。これらの経験は、子どもたちにとって一生の大きな財産となると思います。

日本を出発する前、風間市長は子どもたちを激励する際に、子どもたちのことを「白石の宝」と表現されました。今回のオーストラリア訪問を通して、12人の白石の宝たちはますます輝きを増したように感じます。今後、子どもたちが自分自身をさらに磨いていく中で、どこまでその輝きを増していくのか、本当に楽しみです。そして私自身も中学校教師という立場で、「白石の子どもたち」という大切な「白石の宝」の成長のために努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回のこの訪問において、さまざまな面でご尽力してくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。